

**安全性・信頼性を確保した
デジタルインフラの海外展開支援事業の
地方枠に関する再委託事業
【成果概要 公開用】**

平和情報システム株式会社

事業概要

【成果概要】

当社（平和情報システム株式会社）は、河川や貯水池の水位・流量等を遠隔監視・制御する、テレメータ装置の製造や、ダム放流警報装置を制御する操作卓監視制御装置などの開発および制作を行っている。

昨年、ため池等を監視するシステムを製作し、国内にて設置を進めてきた。

これまで日本の防災、減災に寄与してきたが、常々海外にも展開できないかと考えていたところ、都市化が進んでいるタイ、人口が増えているインドともに川の氾濫が頻繁に起こっていることを知った。

弊社水位計での観測をして、ダム、ため池（貯水池）、調整池などの整備を進めていくことで防災、減災につながると考えている。

今回、海外にて同様システムが稼働できるのか、また日本から海外へ輸出した際、どのような問題点があるのかを確認するため、実証実験を行った。

事業実施内容及び成果

【成果概要】

タイ訪問(打合せ)

図表1 タイ王立灌漑局での打ち合わせ



出典：平和情報システム株式会社

図表2 アユタヤでの水位計設置場所の視察中



出典：平和情報システム株式会社

タイ王立灌漑局(Royal Irrigation Department)での打ち合わせ。アユタヤ地区での水位計設置場所の候補視察中である。

事業実施内容及び成果

【成果概要】

タイ訪問(設置調整)

図表3 視察に来られた政府の方との集合写真



出典：平和情報システム株式会社

図表4 地方灌漑事務所へ設置後の報告



出典：平和情報システム株式会社

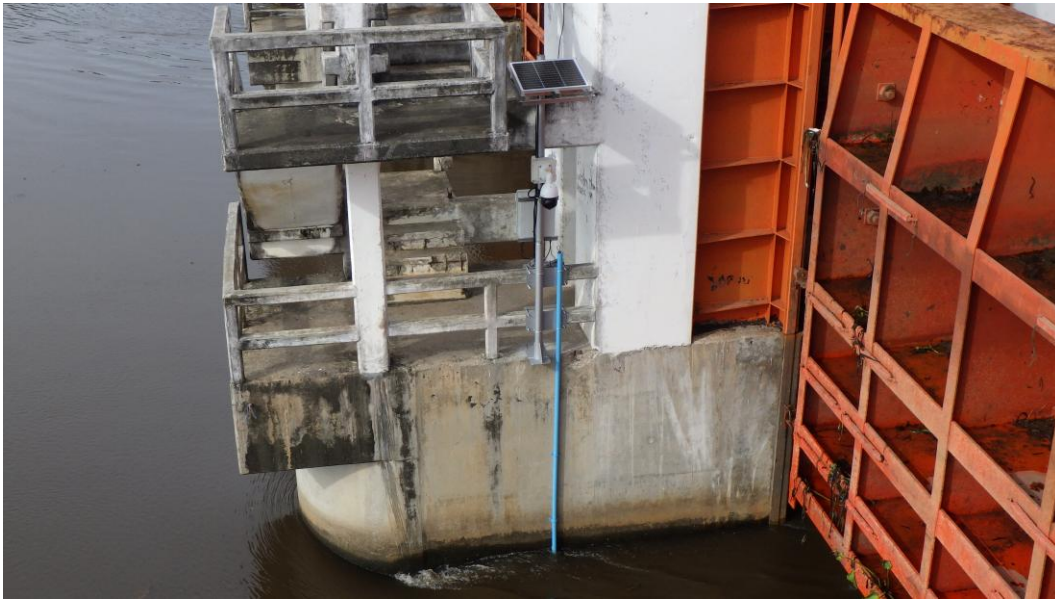
ナコンシータマラートの水門へ水位計と監視カメラを設置。視察しに来た政府の方と集合写真を撮影。設置後にナコンシータマラートの地方灌漑事務所（Regional Irrigation Office）へ報告を行った。

事業実施内容及び成果

【成果概要】

タイ訪問(設置調整)

図表5 設置した水位計監視カメラ



出典：平和情報システム株式会社

図表6 設置した超音波水位計



出典：平和情報システム株式会社

現地設置完了写真。超音波水位計は水門より下流に設置し、上流には圧力式水位計を設置した。
ソーラーパネルは日照の関係で水門より上流に設置した。

事業実施内容及び成果

【成果概要】

インド訪問(打合せ)

図表7 集合写真



出典：平和情報システム株式会社

図表8 打合せ中



出典：平和情報システム株式会社

政府の方に実証実験の許可を求める打合せ行った。

また、設置作業員、材料などの支援をいただける約束をいただいた。

事業実施内容及び成果

【成果概要】

インド訪問(設置調整)

図表 9 設置した水位計監視カメラ



出典：平和情報システム株式会社

図表 10 インドでの機器説明



出典：平和情報システム株式会社

現地設置作業中の写真。

現地を視察しに来た政府の方たちに、水位計に取り付けている機材について説明を行った。

事業実施内容及び成果

【成果概要】

メディア掲載（タイ）

図表11 現地新聞への掲載



出典：Facebook



出典：Facebookの記事をGoogleレンズにて翻訳

図表12 ナコンシータマラート市長と会談



出典：平和情報システム株式会社

設置時の視察、打合せ内容がインドの新聞に掲載された。

また、ナコンシータマラート市長との会談を行い、減災についての思いを伝えた。

事業実施内容及び成果

【成果概要】

メディア掲載（インド）

図表13 現地新聞への掲載



出典：THE HINDU

設置時の視察内容がインドの新聞（THE HINDU）に掲載された。

総額33億4千ルピー（日本円：約60億円）をかけて工事などを行うとの記載。

事業実施内容を踏まえた今後の活動計画・構想

【成果概要】

水位観測装置の拡張性

図表14 インドに設置した水位計と監視カメラ



出典：平和情報システム株式会社

- 水位予測（AI）
- 洪水予測（AI）
- 気象情報との連携
- 緊急メールの送信

- ← ゲート開度情報
- ゲート遠隔制御
- ゲート自動制御
- ← 流量計・雨量計
- ポンプ遠隔制御
- ポンプ自動制御
- ← 震度計
- ← 土砂センサー
- ← 地形変位計
- ← 気温・湿度・風向風速

現在の装置は、実証実験用のため、水位の取得と監視カメラでの映像撮影のみの機能となっている。

今後、この装置に拡張できる内容として、取得した水位データ、画像は全てサーバにて保管されているため、今後、AIでの水位予測、流量予測に活用することができる。

また、他のクラウドとの連携を容易にすることができるため、水位データを別のクラウドで使うことができる。